ありがとうってうれしい

中馬 凜々ちゅうま りん

「ありがとう。」

私は母に、この言葉をよく言われます。この言葉を言われると、むねがいつぱいになります。私だけが、がんばっているんじゃないのーと思います。

私の家は、ラーメン屋さんです。休みは、日曜の夜から月曜日だけです。父が作り、母が手伝います。

土曜日の昼は、一番お客さんがたくさん来てくれます。私は、土曜日のお昼、お店の手伝いをしています。

まず、朝十時ぐらいからそうじを始めます。ほうきでゆかをはきます。はいた後、モップでふきます。黒い足あとなど、きれいになるまで力を入れてみます。

次に、わりばしとつまようじが少なくなったところに、たしで入れます。お客さんが使うので、たっぷり入れます。じゅんぴができると開店です。

「いらっしやいませ。」

大きな声で、あいさつをします。お客さんが「元気があるね。」

と、ほめてくれることがあります。私は、心が温かくなります。母は、にこっとわらってくれます。

父は、めんも作ります。機械で作るので、あぶないからーと近づくことはできません。めんをゆでるのも、熱くてやけどをするといけないので、これも手伝えません。

私ができるのは、食器あらいです。コップやどんぶりをてね

いにあらいます。最近、父が

「上手になったね。」

と、ほめてくれます。ときどき、母といっしょに、ネギやもやし、チャーシューを入れるのもさせてもらえるようになりました。

私は、お店の手伝いが好きです。でも、友達と遊びたくて、手伝えないときがあります。

「むりしないでいいよ。」

と、父と母は言ってくれます。でも、いそがしい二人を見ていと心がいたみます。

「ありがとう。おいしかったです。」

と、お客さんが帰るとき言ってくれます。父は、その言葉が一番うれしそうです。私もうれしくなります。

閉店は、夜の八時半です。最後のお客さんが帰ると、私たちの夕ご飯です。家族みんなそろっての食事です。私は、夕ご飯を作るのも手伝います。ほうちょうを使うのが、上手になってきたように思います。

「おいしいご飯、ありがとう。」

「今日も手伝い、ありがとう。」

父や母から「ありがとう」といっばい言われます。私も父や母に「今日一日、ありがとう。」

と言います。「ありがとう」で、私の家族は幸せいっばいです。